

## わたしのすきな本

### 「今月の一冊 ～わたしのすきな本～」(11月)

#### <ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長

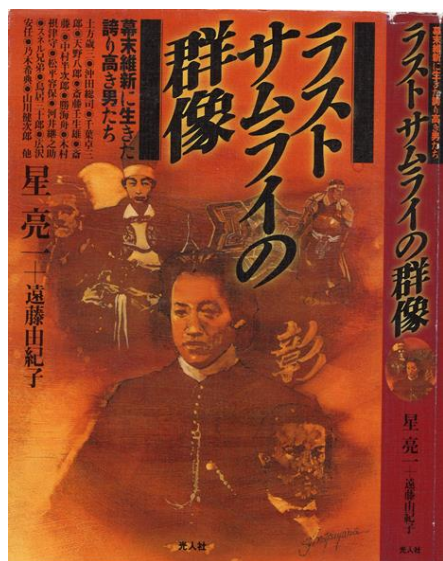


## 『ラストサムライの群像』

～幕末に生きた誇り高き男たち～

星 亮一・遠藤由紀子 著 / 光人社

対象：中学生から高齢者まで



#### 内容のご紹介

秋も深まり紅葉の美しい季節です。是非お出かけください。読書週間も10月27日から始まります。戦後の廃墟の日本を読書文化で立て直す目的で制定されました。今年で第79回になり、読書標語は“こころとあたまの深呼吸”です。

今月は“ラストサムライの群像”をご紹介します。幕末という変化の中で、活動したサムライたちです。その中の一人に小栗上野介忠順氏の話があります。再来年の大河ドラマは、小栗氏を主人公とする“逆賊の幕臣”です。1860年に日米修好通商条約を締結するポーハタン号に乗船します。そして、この船の護衛艦として咸臨丸が随行し、本町出身の吉岡勇平氏が公用方として乗船します。小栗氏の役目は、大老井伊直弼から、日本から海外へ金が流失する原因となっている貨幣の交換比率を正すための証拠をつかむ密命を受けていました。米国との貨幣交渉を成し遂げた人物です。

星亮一先生の声が聞こえます。“吉岡勇平、小栗忠順、河井継之助が明治を生きていれば、明治は変わっていたかもしれない。

歴史の背景から学ぶものがあります。必ず出会いがありますから、読んでください。

勝てば官軍一人心が揺れ動き、「大勢」に流されようとするときに敢えて踏み止まり、意地を貫いた男たち。日本の近代化の過程で生じた殺伐たる時代に、最後の光芒を放った魅力あふれる「サムライ」たちの生き様を描く！(紹介文／光人社)

2006年(平成18年)2月に作者は、星亮一氏(仙台市生)歴史小説家と、遠藤由紀子氏(郡山市生)昭和女子大学歴史文化学科非常勤講師及び、令和7年度矢祭町ふるさと人づくり講演会講師により発行されました。

(紹介文:矢祭もったいない図書館)